

一般的なWebGISと「セキュアGIS」の比較

2020/04/28 NeoGIS

	一般的なWebGIS (NEOGIS Open-Base II)	「NEOGIS セキュアGIS」
使用形態	Web-GISサーバ (クラウド、イントラ) + クライアントPC	Web-GISサーバ (クラウド) + クライアントPC
背景データ	背景地図サーバより配信	背景地図サーバより配信
主題データ	サーバに保存 一般的にはサーバ上のDBに保存。	クライアントPC内に保存 クライアントPC上のCSV、kml、GeoJSON、shape形式ファイル。
主題データ地図表示	主題データはサーバで地図化、またはネットワーク上を流れクライアントPCのWebブラウザで地図化される。	主題データはクライアントPC上のWebブラウザで地図化される。 ネットワーク上を主題データが流れない。
安全性	安全性確保には、サーバDBの堅牢化、ネットワーク上を流れるデータの暗号化、VPN、専用線等の措置が必要。	完全セキュア 主題データはクライアントPCから外に出ない。
GIS機能 処理性能	WebGISのフル機能を使用可能。 処理性能はクライアントPCより、サーバPCの能力に依存。	全てブラウザ上での処理となるため、図形演算等複雑な機能は実装できない。 処理性能はクライアントPCのCPU能力、メモリ容量に依存。
主題データ件数	弊社Open-Base IIであれば億単位のレコード数にも対応可能。	クライアントPCの能力によるが、最大数千レコード。
モバイル	スマホ、タブレットも使用可能	スマホ、タブレットは想定していない。
ターゲット部署	さまざまな用途で使用可能 実績： 公開型GIS、固定資産GIS、現地調査GIS 営業マン管理GIS、防災GIS。。。。	専用GISを導入するほどではない部署。 データをエクセル等で管理している部署。
メリット (安全以外)	汎用的に使用可能	全庁、全社で地図の検索、印刷が可能。アドレスマッチングも可能。